

# 標本資料を守る人たち

日高 真吾 (ひたか しんご)

文化資源研究センター

## 民

博が所蔵する資料は大きく標本資料、映像音響資料、図書資料に分類される。このなかで展示場に展示され、取蔵庫に保管されている資料は標本資料であり、その数は二〇〇四年四月現在で約二四万点という膨大な点数にのぼる。このような膨大な数の標本資料を収蔵し、研究資料として活用するためには、当然、これらの標本資料をつねによい状態で管理しなければならない。ここでは、民博において標本資料を守っているスタッフの活動の一部について紹介しよう。

標本資料を管理する部門には、大きく分けて二つのグループがある。ひとつは展示場に展示されている標本資料を管理するグループ、もうひとつは取蔵庫に収蔵されている標本資料を管理するグループである。



常設展示場で毎朝おこなわれている点検



取蔵庫から出され、展示などで活用される資料の点検



二酸化炭素処理用のバグの組み立て

どの劣化状態を点検するのだ。また、展示場で虫害の発生した標本資料や国内の博物館に貸し出した標本資料の防虫対策もおこなわれている。防虫対策の一環として、館内で発生した虫害資料や、国内の博物館からの返却資料には、二酸化炭素を用いた殺虫処理が取蔵庫グループによってほどこされる。

このような活動のなかで標本資料に生じたさまざまなトラブルの理由と状況にな

展示場グループの活動は毎朝、開館前の誰もいない展示場を巡回することからはじまる。この巡回は破損した標本資料がないか、展示資料を固定する演示具の不具合がないかを確認するとともに、標本資料に虫害が発生していないか、点検をおこなうためのものである。巡回の結果は、点検用の展示場マップに記入していくことになっている。なお、この点検用の展示場マップには、長年の点検で蓄積されたデータから、虫害の発生しやすい標本資料の場所が示るされており、その箇所はより入念に点検する仕組みとなっている。

取蔵庫グループは、特別展や企画展に出展される標本資料や他機関の博物館へ貸し出す標本資料の点検をおこなう。資料の材質を分類し、それぞれの資料に生じている破損や汚損な

明らかにされていく。そして、ここで明らかになったトラブルはすべて保存科学を専門とする園田直子助教や筆者に報告され、その対処方法を協議し、対応する体制となっている。

ここで紹介したような活動は、文化財の保存科学の分野では予防保存とよばれ、日常の管理のなかで事故を未然に防ぐ、もしくは発生した事故の被害を最小限に食い止めることを目的としている。作業自体はとても地味であり、人的、時間的に手間がかかることから、他の博物館において日常業務に導入している例はなかなか見られず、民博独自のものとなっている。しかし、こうした活動によって民博の財産である標本資料は守られているのだ。つまり、この作業に従事しているスタッフこそが、まさに民博の「標本資料を守る人たち」なのである。